

新たな旅立ちに向けて

PTA会長 塩谷 博英



3年生の皆さん卒業おめでとう。三年前の四月、期待と不安を胸に入學した歴史と伝統ある岐阜高校。この三年間で皆さんは何を学び、何を感じ、何を得たのでしょうか？

勉強や部活動、その他の学校行事に積極的に取り組み、思い通りに高校生活を過ごせた人もそうでなかった人もいると思います。卒業を期にこの三年間を振り返り、今後の自身の生き方についてじっくり考えてみて下さい。

希望の大学に入学することは、本校の生徒にとって最も重要なことであります。しかし、長い人生においては、結果よりも目標達成に向かって、何を考え、どのように行動を起こし、いかに努力できたかというプロセスが大切であり、それが人を成長させてくれるのです。これまでは先生や家族に様々な事を教えてもらい、日頃から生活の全てにおいて関わってもらってきたと思います。卒

業後は今までのように周りに頼るのではなく、自分自身で責任を持って行動し、様々な場面で決断して生きて行かなければなりません。

もし、これからの人生の中で、選択に迷った時は苦しい方を選ぶといいでしょう。人は本能的に苦しいことを避けようとしています。しかし、楽な道を選んでいては、人としての成長はあまりありません。苦しい道を選び、それに向かって悩み考え、努力することで人は成長するのです。どうか迷った時はいつも「逃げてはいないか」と自問自答する事を忘れないでいて欲しいと思います。

保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。長い様であったという間の十八年間はなかつたかと思えます。限らない愛情をそそぎ、立派に成長した子供たちを見て、大変嬉しく思うのと同時に、我が子が、自分の手から離れいく寂しさも感じるのではないのでしょうか。しかし、いくつになっても子を思う親の気持ちは変わりません。今後とも子ども達の更なる成長の為、暖かく見守って頂きたいと思えます。皆様にはこの一年PTA活動に対するご協力とご支援に心から感謝致します。

卒業する君たちへ

3年学年委員長 栗本甲太郎

新築の校舎、熱心に指導いただけた優秀な先生、君達は恵まれた環境で、勉強に部活に、青春の三年間を過ごされました。無事、成功を勝ち取られた方、一方、夢を手中に収めきれなかった方々も、いらつしやることでしょう。

私のいるビジネスの世界では、「Plan, Do, See」といって、仕事を管理します。Plan(計画)高すぎる目標、低すぎる目標ではなかつたか。自分にとって適切な目標だったか。自分の得意を生かす分野だったか。Do(実行)目指す目標に対し、一生懸命努力したか。何らかの理由で、努力を怠りはしなかつたか。See(結果の確認)結果を正しく受け止めたか。結果から目をそらせていないか。言い訳をしていないか。反省をし、計画の立て直しを試みたか、です。

このPDSのサイクルがうまくいけば、仕事は順調にいくといわれています。このサイクルは、どんなことにも当てはまるのではないのでしょうか。さあ、新しい春が来ます。君達の新しい生活が始まります。「この世の中で不可能事を目指して粘り強くアタックしなければ、およそ可能なことの達成も覚束ない。」といわれます。君達の歩く道が、太陽の燦々と降り注ぐ、陽の当たる道であることを願っています。

「卒業おめでとう」

「ごいいます」

3年学年副委員長 森崎 友美

旧校舎前の満開の桜の下、入学式のあのあどけない笑顔が思い出されます。あれからもう三年。新しい校舎や体育館となり、素晴らしい環境で高校生活を過ごさせて頂きました。そして無事に岐阜高校を巣立つ日を迎えることが出来ますことは、校長先生始め諸先生方の温かく熱意あるご指導のおかげと感謝しております。本当にありがとうございました。

息子はこの三年間、素敵な仲間と一緒に会い、勉強に部活動にと切磋琢磨し合って高校生活を謳歌していました。私も役員をさせて頂き、多くの保護者の方との出会いがありました。素敵な方ばかりで楽しくPTA活動をさせて頂くことが出来ました。親子共々多くの出会いに感謝し、末永くこのご縁を大切にしていきたいと思っています。これからの人生は、順風満帆な日々ばかりではないかもしれません。独りで苦難を乗り越えることも多くなるでしょう。その時には、校訓の「百折不撓」「自強不息」を思い出し、笑顔で絶やさず未来を切り開いていって欲しい、そしていつも支えてくれる仲間や家族がいることも忘れないで欲しいと願っています。

卒業おめでとう

進路指導部

3年生の皆さん、卒業おめでとう
ございます。卒業の喜びと、前期日
程の試験を無事終了した喜びで一杯
なのではないでしょうか。三年間頑
張った成果を十分に発揮できたと思
っています。前期での合格を祈って
いますが、中期・後期日程に向けて
最後の最後まで諦めずがんばって
ください。必ず幸運の女神は、君たち
にほえんでくれるものと確信して
います。

大学合格は今の皆さんにとって一
番の関心事ですが、長い人生におい
ては、それがすべてではありません。
ほんの一つの通過点です。卒業生全
員の目標がかなえられることを祈っ
ています。



センター試験会場岐阜大学



応援団

ていますが、世の中は順調にいくば
かりではありませんから、時には挫
折し苦しむこともあるでしょう。し
かし、そこで挫けず、乗り越えてい
く逞しさを発揮することこそが、校
訓「百折不撓」の目指すところだと思
います。

めでたく高校卒業を迎えることが
できた本日、まず一番にこれまで育
てていただいた保護者の方々に感謝
してください。また、当たり前の前よ
うに思うかもしれませんが、これま
で、無事に成長することができたこ
とをありがたく思いましょう。

最後に、これから広がる自分の未
来を見つめて心に自分自身の矜持を
しっかりと刻み、活躍されることを
期待しています。

平成25年度入試 大学入試センター試験自己採点結果(対全国 平均点比較)

	国語II (200)	数学IA (100)	数学II (100)	英語 (200)	リスニング (50)	世界史B (100)	日本史B (100)	地理B (100)	現代社会 (100)	物理I (100)	化学I (100)	生物I (100)	6-7文系 (900)	5-7理系 (900)
本年度平均点														
本校	130.1	68.1	73.9	162.3	39.7	75.1	76.6	71.9	72.2	78.0	78.0	80.6	654.9	672.2
全国	101.0	51.2	55.6	119.2	31.5	62.4	62.1	61.9	60.5	62.7	63.7	61.3	530.0	550.0
昨年度平均点														
本校	151.8	86.2	67.3	165.6	31.4	73.6	82.6	71.8	67.6	84.2	83.9	80.2	684.7	713.2
全国	118.0	70.0	51.2	124.2	24.6	60.9	67.9	62.2	52.1	68.0	65.1	64.0	570.0	584.0

総合点は河合塾予想 他は大学入試センター発表

大学入試センター試験

1月19日(土)・20日(日)の両日、大
学入試センター試験が行われ、本校は
岐阜大学で受験しました。

今年度のセンター試験は、総合の平
均点(900点満点)が、昨年より35点
ほど下がりました。そのような状況で
も、本校の生徒諸君は全体的には大変
健闘してくれました。生徒個々には良
かった生徒もいれば、思うようにいか
ず悪かった生徒もいたようですが、二
次力のある本校生は、前期試験でそれ
ぞれが自分の実力を大いに発揮して
くれたことと思います。

また、中期・後期試験と続きます。
最後の最後までがんばって下さい。



センター試験社行会

先輩から後輩へ

「センター試験を終えて」

東京大

センター試験を終えて、意外に思ったのは、全くいつも通りに受けることができたということです。試験会場が暑すぎたり、寒すぎたりすることもなく、まわりの受験生もいたって普通でした。よく言われる説明のくどさ、問題配布から試験開始までの長さ、休み時間の長さも気になるほどではありませんでした。このようにトラブルもなく落ち着いて受験できたのは幸運でした。ただ、練習通りにできたということは、練習をしていなければ成立しないわけで、「練習は本番のよりに、本番は練習のよりに」という言葉のありがたさが分かりました。

東京大

緊張するかと思いましたが、全くといってよいほど緊張はなく、センター試験の日が近づくにつれてむしろ楽しみなようにも思えてきました。なぜか根拠のない自信がありました。いざ臨んだセンター試験、最初の社会でなかなかの手応えを感じたものの、その次の国語で撃沈されました。今までにやっただの過去問よりも難しく感じ、時間もかかって焦って読んでしまつて、終わった後は生きた心地がしませんでした。しかし休み時間に友人の「国語難しかった〜」という声を聞いて、みんな難しかったんだと割り切って英語に臨むことができました。2日目の理系科目も無難に乗り切つて、全体的には目標点を超えることができました。センター試験は決して簡単なものではなく、また既してどの年の受験者も自分の受けたセンター試験は難しく感じるものだと思うので、たとえ自分ができるなくても、焦らず、みんなもできていないだろうくらいの強気と平常心を保つことが重要だと思いました。これから残り1ヶ月、2次に向けて頑張りましょう。

東京大

予想されていたとおり、非常に難易度が高かったです。1教科1教科、ただただ落ち着いて、いつも通り解答することを心がけました。最大の危機は数学。今までと傾向が全く違い、自分の勘違いも相まって、数学I Aは無解答のところ結構出てしまいました。「今まで必死にやっつけてこれか〜」と落ち込みましたが、すぐに「みんなも同じだろう」と思い直し、次の数学II

Bへ気持ちを切り替えました。そのおかげが比較的落ち着いて取り組む事ができ満足な点数をとることができました。近くに励まし合える友達がいことも大きかったです。結果目標の9割には届きませんでした。したが、今回の難しさを考えれば、まだまだ頑張る範囲にいます。と思いたいのです。センター前は志望校をこのままでいくのか、下げるのか迷い、勉強が手につかなかった時期がありました。もう迷いません。残り1ヶ月死ぬ気で勉強して、必ず合格します。

京都大

前期試験のセンターの比率が低かったので、センターの勉強を本格的に始めたのは12月の後半からだった。初め世界史の出来がよくなくて、それからひと月、世界史の強化を目標にした。S先生がいつも言われていた「読書百遍」という言葉に倣い、教科書を読み込むことと対策とした。本番の1教科目、問題を聞いたとき、教科書で読んで覚えのある事柄が多く、すらすら解くことができた。また、学校の授業で先生が言われていた、「インフレーションは危険!」という言葉も役に立ち、予想以外で世界史を終えることができた。結果世界史で8割を超えることができ、大学受験の初戦を気持ちよく終われ、2次へはすまみをつけられた。

京都大

岐阜生ならみんなセンターで点が取れ差がつかなくいので、何で差がつくかと言えれば精神面だと思う。何よりも集中力が大事。私は国語の最初、現代文がかなり長く読みづらいと尻込みしたうえ、周りにすごい音で鉛筆を動かす人がいて気が散ってしまった。新傾向となった場合でも、柔軟に対応できるような心の余裕というか、もしもの場合に備えたイメトレしておくというか、終わるまでネガティブ語は禁止、気分すくすくよくよく、ものすくすく寝るので、休息を第一に考えて行動。

京都大

1日目が重視される配点の学部を志望していたので、失敗しないようにと意気込んで臨んだつもりだったが、やはり場の空気にのまれてしまったのか、いつもの集中力でいたつもりがあまりよい結果は得られなかった。特に国語は途中で「これは無理だ」と思ってしまった。いつも受ける模試との違いが痛切に感じられた。帰宅後、解答速報を見て答えを合わせたのです

が、いつもより出来が悪いことに、最初は「こんなものか」程度に思っていたけれど、徐々にその事実が重くのしかかってきて、落ち着きを取り戻すことは簡単ではなかった。しかし2日目は配点に影響のない科目であり、安定して取れるものが多かった。そのせいで慌てることなくこなすことができたと思う。1日目が終わった後の採点は、ある意味賭けみたいなものであるため、自信のある人しかやっつてはいけないことだというのが教訓。

岐阜大(医)

センター試験前日の集会や懇話会を見て楽しむことで、とても緊張がほぐれ、当日の朝も友達と話している。落ちてしまった上に動揺もしたので、点数は良くないつもりで、試験が始まるまで時間も長いので緊張してしまいが、そのまま地理の試験が始まった。元々地理は苦手だった上に動揺もしたので、点数は良くないだろうなと思ったが、その後昼食で友達と話したら気が楽になった。それ以降は何の問題もなく、緊張感も保つたが、緊張はしないといつも通り頑張った。甘いものを食べると元気が出た。結果的には今までが一番良い点が取れて嬉しかった。地理がかなり伸びて、普段より20点ほど上がったので、本番は何があるか分からないと思つた。最後まであきらめないことが大事だと実感できた。まだ受験は続くので気を抜かず努力していきたい。

大阪大

正直センター試験は失敗したので、悔しいしとか言えません。私は国語で大コケしてしまい、全体の得点を大きく下げてしまいました。国語はもとから苦手だったので、対策はしたつもりだったけれど、本番で発揮できなかったのが悔しいです。でもその後の英語までの休憩で、何となく気持ち切り替えようというところだけを考えていました。そのおかげか、英語で大きく失敗することがなかった。まだ良かったです。まだ入試は終わっていないので、2次で挽回します!!!

大阪大

センター試験を受けてみて分かったことは、確かなことはなにもないということです。今年の試験は平均点が大きく下がると予想されていて、特に数学I Aは出題傾向が今までと違つたこともあり、思うように点が取れませんでした。国語の現代文も変な感じでした。

私は数学が最大の不安要素で、「比較的簡単な数学I Aでできるだけ点をとろう」という気持ちがありました。過去問を解いてギリギリ、試験が終わった後は呆然としてしまいました。先生の「自分で点数を見極めてい」と意見をすくわれるという言葉がその時初めて理解できた気がします。でも自己採点の結果、数学以外の教科は直前の模試と比べてよい点がとれていて、模試の結果に落ち込んだことをバネに頑張つてよかったと思えました。試験本番では良くも悪くも予想外のことが起きると身をまわして経験しました。センター試験はまだ通過点に過ぎないので、この結果にとらわれないこと、次に向けて勉強していきたいです。

お茶の水

終わつてみればセンターはあつという間でした。本格的にセンター用の勉強を始めたのは12月に入ってからで、理系のくせに理数科目が苦手、数学は50点取れないし、化学も60点とれないし……。でも、毎朝化学の朝補習に通い、着実に点を伸ばすことができました。学年集会でT先生が「1割6分なう十分」とおっしゃつたので気が楽になりました。当日は、やはりどれだけ切り替えが上手にできるかがポイントだと感じました。特に2日目の数学I Aが終わった後はぼーっとしてしまつても考えられず、内心パニック状態でした。その時、クラスの友人と應下で他愛もない雑談をして気を紛らわしました。みんな同じだと自分に言い聞かせていました。そのおかげで次の数学II Bは目標点を取ることができました。とにかくポジティブに、自分は大丈夫だ、絶対受かるんだ!と信じ続けてセンターを乗り越えたので、2次もこのまま自分を受かるんだと思いついて、合格してきます!

名古屋

世界史、英語、理科はかなり高得点を取つたのではないかとこの感覚があった一方、国語と数学は全く分からなくてパニックになりました。試験終了直前でもマークシートが全然埋まらなくて、このままではセツク昨日まで日があつたので絶対に落ちると思つて泣きました。そして目の前が真っ黒になって「気が付いたら試験場の後ろのほうにいて、少ししたらチャイムが鳴りました。すぐに治まりましたが、とんでもないことをしたと思つて泣きました。その後、試験官の人に助けられて、別室で数学II Bを受けました。1人だったので落ち着いていました。周りの人に申し訳ないと思う半分、感謝の気持ちがかみ上げてきました。

お茶の水

終わつてみればセンターはあつという間でした。本格的にセンター用の勉強を始めたのは12月に入ってからで、理系のくせに理数科目が苦手、数学は50点取れないし、化学も60点とれないし……。でも、毎朝化学の朝補習に通い、着実に点を伸ばすことができました。学年集会でT先生が「1割6分なう十分」とおっしゃつたので気が楽になりました。当日は、やはりどれだけ切り替えが上手にできるかがポイントだと感じました。特に2日目の数学I Aが終わった後はぼーっとしてしまつても考えられず、内心パニック状態でした。その時、クラスの友人と應下で他愛もない雑談をして気を紛らわしました。みんな同じだと自分に言い聞かせていました。そのおかげで次の数学II Bは目標点を取ることができました。とにかくポジティブに、自分は大丈夫だ、絶対受かるんだ!と信じ続けてセンターを乗り越えたので、2次もこのまま自分を受かるんだと思いついて、合格してきます!

卒業を祝して

3年学年主任 市川 浩通

なにもわからない将来、何者かもわからない自分、18の頃に私が抱いていた不安だ。ただ、大人になって行くことだけは明確で、つまらない大人にはなりたくないと思えていた。君たちも私たちが過ごしてきたように、いろんなことを考え、様々な出来事に出会おう。人は一生の中で多くを経験する。そして「経験は最良の教師だ」と実感を持って語る。そんな彼らに、賢明な者は「但し、授業料が高すぎるがね」とシニカルな言葉を告げる。

何に挑むにせよ、どんな経験をするにせよ、予めその結末は約束されていない。それにもかかわらず問題に直面したとき尻込みする者と一歩前に出る者がいる。勿論、個人に力が無ければ前に出ることなどできないが、経験のみを頼りにしたり、自分のみが正しいと判断したりするものは孤立を余儀無くされる。そんな経験も時には必要だが、そればかりでは尻込みする様になるだろう。

自分より経験のある先輩や、自分には無い視点を持った友からの言葉を受け入れることができたかどうか。また、自分ではできない(したくない)経験を書物から得ることができたかどうか。勤勉であり、素直であり、物事を軽んじることのない誠意を持った者は年齢に関係なく「多くの経験」「最良の教師」を常に内在化できる。そして周りには力や想いを束ね、その背中を押し

てくれる。

受験に限らず何か立ち向かう時、やはり個人の力がものをいう。どんな団体戦でも個々の力が高くなければ勝てない。個人の力量を上げることが必須命題だ。しかしながら、君たちは一人でなく皆で立ち向かうことの心強さも実感しているだろう。競い合うだけでなく、仲間と励まし合い苦難を分かち合うことで人は磨かれる。だからこそ君たちがお互いにリスベクトでできる友を母校で得たことは何物にも替え難い。「健康でいて欲しい」「人の為になれ」と暖かいエールを送ってくれる恩師もいる。少しばかり長く生きている私たちも君たちを孤立させはしない。君たちは決して一人になってはいけない。これから皆で頑張ろう。母校とは君たちが帰ってくる場所なのだから。

トーマス・カーライルは「一生の仕事を見出した人は、他の幸福を探す必要はない」と言った。私事で申し訳ないが、自分の職業にこんなにも誇りとやりがいを持ち、幸せな時を送ることができるのは君たちに依る処が大きい。本当にありがとう。

次は君たちの番だ。必ず夢中になれる仕事(職業とはかぎらない)に出会うだろう。いや、そうやって貰わなくては困る。何せ私たちは君たちに未来を託したのだからね。大丈夫さ、君たちならできる。

3年間の思い出



3 力 年 皆 勤 者	1組	伊藤 紀菜花 杉山 温子	岩屋 遼 高木 彩花	河島 裕樹 高崎 文	酒井 健有
	2組	相澤 祐太郎 可児 康志郎 成田 知也 横山 智也	阿部 彩香 塩谷 啓介 堀 聖弥	岩田 星菜里 長尾 菜里 宮田 健太郎	奥村 賢太郎 仲村 絵里香 柳 嘉範
	3組	臼田 咲実 三嶋 拓也	加藤 祥太 武藤 功甫	左高 侑奈 山田 夏美	松尾 真帆 吉田 遥香
	4組	稲葉 さひな 笠原 彩乃 丹羽 優季 秋田 紗希 桐山 宣生 増田 みのり 山本 真之介	大坪 誠 杉山 幸大輝 森 大輝 尾崎 遥 鹿野 綾音 松島 伽奈	大坪 愛美 豊田 直也 森 龍輝 鹿島 弥生 土田 智大 松原 洋輔	大野 雄也 中山 裕哉 山田 智輝 亀山 由佳 花村 有希 南谷 知志
	5組	小笠原 誠 高津 吉史 林 知宏 山岸 椋平	岡田 佐和子 土田 直輝 三浦 有貴	小森 千裕 寺町 幸希子 水野 智公	宗宮 侑香 長谷川 結平 森崎 秀紀
	6組	伊藤 麻紗美 高田 史織 吉田 晴貴	加古 素之 平井 里彩	黒井 裕斗 水崎 優馬	後藤 渚 矢島 寛貴
	7組	江口 舞 佐藤 幸紀	小川 結実子	小椋 由依	小林 由奈
	8組	今井 健太郎 中嶋 温子	大橋 絵里加 森 光史	亀山 知美 山本 章基	瀬川 徹哉 吉川 はるな
	9組	大野 公輔 吉武 駿 浅井 千加良 岩田 健太郎 土田 智大 小川 黎	高木 彩花 後藤 朱里 稲川 清香 櫻橋 玲奈 景山 知依 一柳 肇	加古 素之 辻 真樹 野村 周平	中 美友 大野 加愛 荒井 美咲
同窓会幹事	学年代表幹事 辻 真樹 小川 黎				

平成25年度 大学合格者数

大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
北海道大	4	名古屋市立大	14	岐阜医療科学大	3
弘前大	1	滋賀県立大	1	愛知大	7
秋田大	1	京都府立大	3	愛知医大	7
筑波大	1	大阪市立大	3	愛知学院大	4
千葉大	2	大阪府立大	1	愛知淑徳大	4
東京海洋大	1	神戸市外大	2	金城学院大	7
お茶の水女子大	3	九州歯大	1	椋山女学園大	2
東京大	11	自治医大	1	中京大	15
東京外大	4	東京国際大	1	中部大	6
東京工業大	3	青山学院大	6	豊田工大	6
東京農工大	1	学習院大	2	名古屋外大	4
一橋大	2	北里大	6	名古屋学院大	3
横浜国立大	4	慶応大	34	南山大	109
富山大	3	工学院大	1	藤田保健衛生大	16
金沢大	5	国学院大	1	名城大	50
福井大	2	国際基督教大	3	鈴鹿医療科学大	1
山梨大	3	芝浦工大	10	四日市看護医大	1
信州大	2	順天堂大	2	長浜バイオ大	1
岐阜大	47	上智大	6	京都外大	1
静岡大	6	昭和大	1	京都女子大	3
愛知教育大	1	成蹊大	1	京都薬大	4
名古屋大	34	専修大	1	同志社大	91
名古屋工大	9	多摩美大	1	同志社女子大	2
三重大	1	中央大	21	立命館大	120
滋賀医大	1	津田塾大	7	大阪学院大	1
京都大	27	東海大	1	大阪薬大	1
大阪大	12	東京医大	1	関西大	17
大阪教育大	2	東京家政大	1	関西医大	1
神戸大	5	東京電機大	1	関西外大	4
奈良女子大	1	東京農大	5	近畿大	7
島根大	2	東京理大	43	関西学院大	9
岡山大	1	東洋大	1	甲南大	1
広島大	2	日本大	2	岡山理大	3
山口大	2	日本女子大	2	川崎医大	1
香川大	1	法政大	13	福岡大	1
高知大	1	武蔵野美大	1	防衛医科大学校	2
九州大	2	明治大	36	国立看護大学校	1
長崎大	3	明治薬大	1	防衛大学校	1
高崎経大	1	立教大	7	岐阜市立女子短	1
首都大東京	2	早稲田大	44	南山大短大部	1
福井県立大	1	神奈川大	1	川崎医療短	1
岐阜県立看護大	3	金沢工大	2	岐阜市立看護専	1
岐阜薬大	16	朝日大	2	留学	1
静岡県立大	1	岐阜聖徳学園大	11		
愛知県立大	1	中京学院大	1		

※浪人生を含む

岐阜県立岐阜高等学校 校歌

作詞 松平 静

作曲 伊藤栄治



せ じんのたけ き んかざん ひゃくりのみずな がらがわ
が かいのなみ あ らくとも き ぼうのきしと おくとも



か ようのけんじ ここにうまれてこっかのためにあけくれまなぶ
か ようのけんじ こころおおしくひやくせつふとうつとめてやまず



ふ るへ ふ るへ ほこるさいこのれきしある わがこーこーの



ほまれをば あげよ も ろびと も ろ と も 一 に

挙げよ諸人	我が高校の	誇る最古の	奮へ	百折不撓	華陽の健児	希望の岸	学海の波	国家の為に	華陽の健児	百里の水	千仞の嶽
諸共に	誉れをば	歴史ある	奮へ	つとめて止まず	心雄々しく	遠くとも	荒くとも	明け暮れ学ぶ	ここに生まれて	長良川	金華山

応援団々歌

- 一、金華城頭月冴えて
蓋世の英雄信長の
万象すべて沈黙なり
雄図の跡に苔むしむ
- 二、嗚呼熱血児信長の
ありし昔を偲びては
覇業は夢と消え果てど
健児無量の想ひあり
- 三、熱血受けし一千の
桜の香り身に沁みて
心一つの健児等が
根城構えて百三十余年
- 四、悲壯の風の吹き荒び
校の徽章の桜花
混濁の波逆巻けど
身もて護る健児団
- 五、熱血なる敵の迫るとも
破邪の剣をぬき立てば
寄せ来る仇は多くとも
竜車に向う螳螂ぞ
- 六、敵に鬼神の勇あるも
我には紅き血潮あり
仇に天魔の計るるも
カラくれなるを見ずや君
- 七、さはあれ心せ同胞の
桜の花の散るあらば
香りは永き百三十余年
散るその下に死なん哉
- 八、誘う嵐に散らされず
朝日に匂ふ桜花
尽くせし心の現はれて
その花の下に我れ立たん

凱旋歌

- 一、泰山厲と消ゆるとも
我が身に功なかりせば
- 誓つて桑梓に見えじと
出でし華陽の健男児
- 二、されど見よ見よ今はこれ
身に大功の光そへ
- 姿を変えて悠々と
我が大丈夫は帰り来ぬ

岐高女校歌

一、ああすめらみ國 榮ゆるみ代に
われら処女 生れあひたる幸
胸の鏡と 日々にあふく
教への道の 勅語

二、見よ稲葉山の 姿は高し
われら処女 高く心を保たむ
國の御為に 人の為に
力のかさり つくさはや

三、きけ長良川の 瀬の音は清し
われら処女 清く心とみかかむ
はげみいそしみ 探かたく
明るき微笑 うつくしく

姫小松

一、学びの庭の 姫小松
千代の襟に たくへつ、
植えしその日のわくろきね
いそや祝わん 諸共に

二、恵みのつゆに うろおし
みとりゆわしき 姫小松
いよよますまきしけし
千代に八千代にせかえなん

藍水くらぶ

高木 あい筆

姫小松(創立記念日の歌)

Musical notation for '姫小松(創立記念日の歌)' in G major, 4/4 time. The melody is simple and melodic, with lyrics written below the notes.

岐高女 校歌

Musical notation for '岐高女 校歌' in G major, 4/4 time. The melody is more rhythmic and features some triplets, with lyrics written below the notes.

岐阜県民の歌

(昭和30年4月1日制定)

作詞 永繩 半助

作編曲 服部 正

爽やかに流れて

mf

み どり を そ め ー て あ さ の ひ ー が
 た か い こ ず ー え に ゆ れ て い ー る
 み ね か ら み ね ー へ こ と り も よ ん で
 き ふ は き の ー く に や ま ー の く ー に
mf
 の び る き ー ぼ う を う た お う よ

一、みどりをそめて 朝の日は

高い梢こすえに ゆれている

嶺みねから嶺へ 小鳥もよんで

岐阜は木の国 山の国

伸びる希望きぼうを うたおうよ

二、つゞく平野の 雲遠く

虹ななの七いろ もえている

村から街へ 生氣せいきに映はえて

岐阜は野の国 幸の国

力むすんで はごもうよ

三、名所史蹟に 風かおり

華ももみじも 鶉うすかがりも

かがやく文化に 色そえながら

岐阜は詩の国 水の国

はずむ心で 進もうよ



松野雅俊(昭和45年卒)

まあ、しかし、なんですか、普話するのにdecadeよりcentury持ち出した方が相応しいようなことで。

小木曾和夫(昭和45年卒)

これまでは、10年に一度の総会でしたが、これからはできるだけ出席したいと思っています。息ある限り。

小椋圭吾(昭和45年卒)

年末より家族が交通事故の被害者になり、同窓会の仕事を充分にこなせなくて申し訳ありません。



亀山 弘(昭和55年卒)

同窓会総会の運営は大変な仕事です。ただ、同級生や学年を越えた交流やネットワークができ、お金では得ることができない貴重な財産を得たような気がします。このつながりを今後も大切にしていきたいし、岐阜高校卒業生の活躍や母校の発展を願っています。

総務部

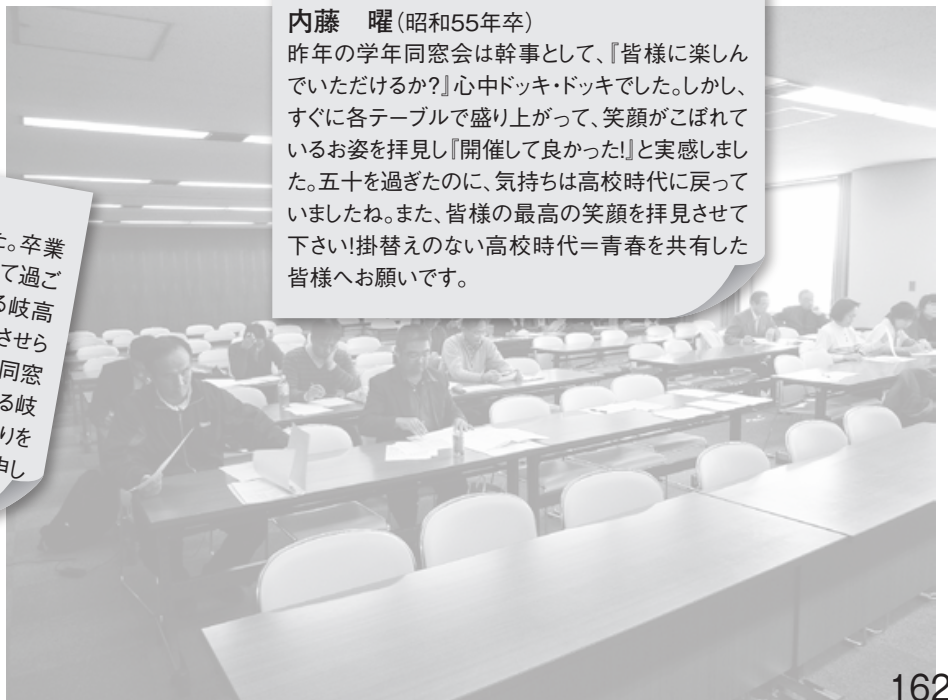


加藤純大(平成2年卒)

高校時代は、ただ鬱々と過ごした日々でした。卒業後は誇りを感じるよりはむしろ、母校を遠ざけて過ごしてきました。岐阜に帰り3年、SNSで広がる岐高同級生の輪。彼らの活躍や人柄に触れ、感じさせられた岐高の凄さ。改めて岐阜高校と関わりたく同窓会委員に。そして諸先輩方の活躍を知り、更なる岐高の誉れを知りました。卒業生としてようやく誇りを感じています。この度の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

内藤 曜(昭和55年卒)

昨年の学年同窓会は幹事として、『皆様に楽しんでいただけるか?』心中ドッキ・ドッキでした。しかし、すぐに各テーブルで盛り上がり、笑顔がこぼれているお姿を拝見し『開催して良かった!』と実感しました。五十を過ぎたのに、気持ちは高校時代に戻っていましたね。また、皆様の最高の笑顔を拝見させて下さい!掛替えのない高校時代=青春を共有した皆様へお願いします。



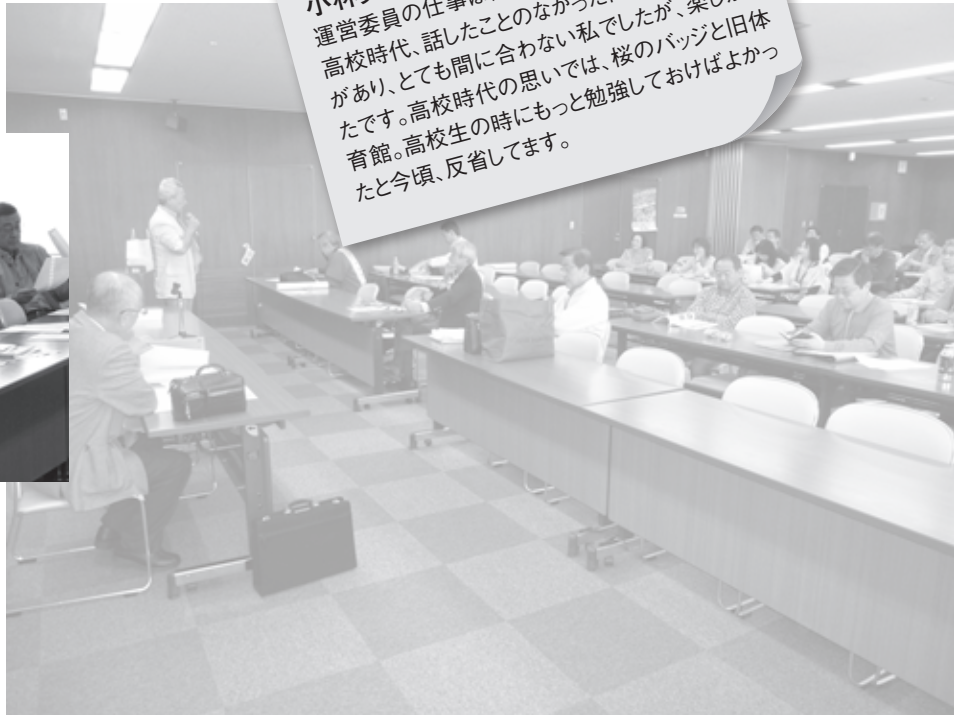


高井博文(昭和45年卒)
忠節橋がいつも混んでいて、よく遅刻しました。西野町のバス停から学校までよく走ったものです。



財務部

小林美穂(平成2年卒)
運営委員の仕事は、友人との久しぶりの再会と、高校時代、話したことのない同級生との会話があり、とても間に合わない私でしたが、楽しかったです。高校時代の思いでは、桜のバッジと旧体育館。高校生の時にもっと勉強しておけばよかったと今頃、反省しています。



祖父江 和子(昭和45年卒)

ヨガのインストラクターをやっています。呼吸法がとても大切になります。あのころ、このころ振り返り、一呼吸。とても大切な時間です。

山下 玲子(昭和45年卒)

60歳を越え、鬼籍に入った同級生もいて、限られた人生、これから充実した日々を過ごしたい。久しぶりに多くの同級生に会えてよかった。

須田 敦子(昭和45年卒)

18歳のころ、これからの自分の人生がどのような展開していくか、一抹の期待と不安をもって卒業式、友と別れたことを覚えています。「仕事と家庭」の両立を自分なりに充実して終え、さてこれからの人生に対して再び一抹の期待と不安を感じるこのごろです。再び親しき友と感動を共有して豊かな生活を送りたいと思っています。

松井 康司(昭和55年卒)

会場部の手伝いをしています。高校生の頃はクラスも異なり、ほとんど話すこともなかった同級生と30年以上の時を経て、昔話をしながら時間を共有していることが不思議でもあり嬉しくもあります。同窓会当日に多くの懐かしい顔に出会えるのを楽しみにしています。

田代 陽子(昭和45年卒)

最近の趣味は、神社仏閣巡り。そこで家族の健康と、世界の平和を祈念します。「見学」ではなく、祈りの場所であることを改めて思います。

会場部

足立 政治(平成2年卒)

岐高時代は良き恩師に良き友と過ごした楽しい3年間でした。こうして同窓会の仕事を手伝わせてもらうと母校の偉大さをあらためて感じます。これからも同窓の絆を大切にしたいです。よろしくお願いします。

井上 尚美(平成2年卒)

卒業してからもずっとごぶにいますが、なかなかお会いする機会がないので、同窓会楽しみにしています。

笠原 千嗣(平成2年卒)

卒業後20年それぞれ歩んできた道は違えども、「岐高」級友と再会したとたん時間が戻った。岐阜はのんびりだが「サリン事件・9.11テロ・大震災」いろいろあった。社会人、人生の折り返しの時期にこの場で集えたことの意味は大きい。頼れる友をみて「外見」「文化・教養」「コミュニケーション能力」、出遅れは否めない。こんな時代、しっかり平和な世界を祈りつつ、また10年後成長?しているだろう自分にも期待。





中西 謙司 (昭和55年卒)

在校当時は忙しくて、語り合うことも少なかった同窓生。卒業より30年を経て再会するのは、ほとんど初対面同様なのに、すぐに打ち解けて語り合えることに感動した。同窓生はこれからの人生の大きな財産だと思う。大切にしたい。

岩田 仁 (昭和55年卒)

微力ながら、会場係として同窓会の運営に関わらせていただきました。ほとんどの同窓生は卒業以来顔を合わせておらず、旧交を温めることができました。今後ともよろしくをお願いします。

飯沼 宣樹 (昭和55年卒)

今回、同窓会総会運営委員会に関わらせて頂き、自分の周りに岐阜高校卒業の方が意外と多くいることが分かり、心強く思うとともに、自分たちも在学中には先輩の方々に温かく見守られていたことを知り、改めて感謝の気持ちがわいてきます。自分たちが在学中は「百有余年の歴史」でありましたが、今年は創立140年とのことで、時が経つ速さに驚くとともに、このように同窓生間の絆が深い岐阜高校で学べたことを誇りに思います。

東松 直美 (平成2年卒)

この度、岐阜高校の同窓会のお手伝いを微力ながらさせて頂いています。高校時代の事は色鮮やかに思い出せるのに、もう20年以上もたっている事に愕然としています。当時はスマホもSNSもありませんでしたが、現在はフェイスブックの様なSNSで再び岐阜高校の同窓生の皆さんと縁が出来、同窓会のお手伝いが出来ました。各界で活躍中の同窓生の皆さんから刺激を受けられる同窓会を楽しみにしております。

川村 真理 (平成2年卒)

昨年の同窓会での23年ぶりの校歌斉唱は、歌詞の一言一言が心に沁み、岐高の力強さ・志の高さを改めて感じさせてくれました。この日から始まった、本日の同窓会の準備活動においても、同級生や諸先輩方に同様の力強さ・志の高さを感じる事が多々ありました。また皆が「百折不撓」の四字を心に秘めて、卒業後の人生を送ってきたことも知りました。心地よい刺激を受け続けたこの1年。素敵な出会いと再会に感謝しています。



渡辺 祐子 (平成2年卒)

在学中は、部活動に勤しんだ訳でも学業に心血注いだ訳でもなく、のんびり過ごしていた私ですか、岐高での財産はひとえに、バイタリティにあふれ、自分の知らない世界や考え方をもち、あこがれるべき人柄の、多くの友人知己を得られたことだと思っています。同窓会を通じて、邂逅の機縁をいただけることがまた、日常生活の活力にもなり、あらためて岐高の底力に、感謝!

鈴木 紀子 (平成2年卒)

卒業してから早二十数年。勉強、テニス、友との語らいに明け暮れていたあの頃を懐かしく思い出します。幹事年として今回携わせて頂いたことをきっかけに、卒業以来会っていなかった多くの仲間と再び繋がることができました。苦楽を共にした友人達の存在のありがたさを感じ、感謝すると共に、このご縁を今後も大切にしていきたいと思っています。総会では更に多くの仲間、諸先輩方々と繋がることを楽しんでいきます。

篠田 俊彦 (昭和55年卒)

私は現在、高校で国語の教員をしています。この世界にも岐高OB会があり、卒業後何十年も経っても変わらぬ愛校心の強さに感嘆させられます。今回、再び同級生の皆様と交流できることを、心から楽しく思っております。

アトラクション担当

幸脇 直人 (昭和45年卒)

コッカのために明け暮れ学んだ結果が、これです。



市川 明子 (昭和45年卒)
 私は運営委員会の中で最高学年という事でか、広告部として銀行通帳を預りましたが、この原稿を書く時点では、まだなにもしておりません。ここに至ることができたのは、伊藤事務局長を始めとし、55年卒の方々のご尽力の賜物です。素晴らしい後輩たちがいっぱいいて、日本は安泰です!

伊藤 俊哉 (昭和45年卒)
 同窓会の事務局を引き受けて、今までなかなか会えなかった同級生と会えて、うれしく思っています。



| 廣 告 部 |

小池 基司 (昭和55年卒)
 広告獲得はある面むきふむきもあるので、強制できるものではありません。目標と方向性のみを提示して、やる気のある人に気持ちよく動いてもらい、苦手な人にはハラハラしていた人もいたでしょう心がけました。スタッフの中にはハラハラして、自主性にお任せが、みなさん社会経験豊富な方ばかりですから、自主性にお任せするのが一番と思いました。あっという間に目標を達成できたのも賢いスタッフのおかげです。今だから白状しますけど僕はとっても営業が苦手な人間です。僕ががんばったと思っている人がいたら勘違いですから。すべてスタッフのおかげです。

小川 浩志 (昭和55年卒)
 子供も高校や成人し、世代の交代を感じる、また一年一年を大切に過ごさなくてはならない年齢にもなりました。140年の歴史ある岐阜高校の同窓会開催の役員として懐かしい再会と歓談を楽しみに、県外ながら参加させていただきます

丹羽 啓二 (昭和55年卒)
 3年間男子クラス、部活も柔道部(途中退部)で、色気のない3年間の高校生活ではあったが、高校生活を岐高で過ごしたことは、いろんな面で想い出深いものになっています。また、息子も岐高でお世話になったこともあり、創立140周年同窓会総会の運営委員として、微力ながら協力させていただきます。



安田 章男 (昭和55年卒)
思い起こせば、10年前の総代会報に「世界で活躍するOB」として台湾から寄稿。永らくの海外勤務を終え4年前帰国し、10年後の今回、縁有って今度は同窓会総会の運営委員として活動に参加。久し振りに歴史ある岐阜高校の卒業生であることを想起させられました。「百折不撓」……これまでも、そしてこれからも人生の教訓です。



中村 ゆかり (昭和55年卒)

同窓会共同幻想

昨年の学年同窓会では30年以上会ってないのに、変わってないねえと言いついた感覚はとても不思議だった。変わってないと言うほど近い存在だったのか、強烈な記憶があったのか、過去に思いを馳せた。そして現在を語り、同窓会は帰し方を振り返り行く末を見つめるよい機会になりえた。あなたはどんな幻想の中を浮遊しましたか。



河合 秀樹 (平成2年卒)

今回、広告部の一員として微力ながらお手伝いさせていただきました。諸先輩方のお力もお借りして無事に大役を務めあげることができ、とても感謝しております。その中で、岐阜高校の歴史の重さや結束の強さを改めて感じる事ができ、また、伝統と誇りを次世代に伝えていかなければならないという使命感を抱きました。ありがとうございました。



堀居 真大 (平成2年卒)
準備はいろいろたいへんでしたが、多くの懐かしい友人と会うことができ、とても得難い経験でした。20年ぶりの方もいたりしましたが、みんな変わってないことに驚き。もともと、会って名前を聞いても誰だかわからないという人もいましたが…。同級生も500人いると、さすがに全員覚えてないもんね。



大野 弘一(昭和45年卒)
10年前に実行副委員長を務めました。今年は休ませてもらうと思いましたが、最後の担当年度、やはり自分の岐高への思い出を作りたくて、部長を引き受けました。次年度の皆さんも思いで作りのため、是非役を引き受けてください。

平塚 法夫(昭和45年卒)
岐高の教育は社会に出るとわかる。要領が悪く、社会、組織とうまくやれない。自分が正しいと自信满满で人に説教するタイプが多い。しかし、能力があるので、曲がりなりにも、実力で60才までやってこれる。もちろん、自分に自信があるから決して回りの空気を読んではいない。うまく立ち回ればもっと楽しい人生を送れたかもしれない人が多い気がする。

齋田 裕明(昭和45年卒)
久しぶりに皆さんにお会いしましたが、思ったより若々しくて素敵でした。

足立 和弘(昭和45年卒)
還暦を迎え、過去の生き方を振り返り、新たな希望を持って生きたい。

西脇 明美(昭和45年卒)
修学旅行の入浴中、海にアザラシが泳いでいると思ったら、実は・・・、という思い出があります。秋の海でした。今回、泳いでいた人と出会えました！何十年ぶりに「真相」が分かりました。

動員部



高牟礼 寛(昭和45年卒)

同窓の突然の訃報に驚いています。昨年も同業の先輩を喪いました。思えば高校時代は坂の上の雲ならぬ人生の坂の上にある何かしらに向かって急な坂を駆け上がっていた日々。今人生の下り坂にさしかかり、これからはあちらこちら寄り道をしながらゆっくりと下って行ければと思う今日この頃。三村文三君のご冥福を祈ります。





小塚永子、石田祥子、大熊理佳代
 (昭和55年卒)
 学年同窓会に参加したことから運営委員になり、1回目の打ち合わせに心細い気持ちで参加すると、そこには温かさがあり、絆を感じました。慌ただしい毎日の中で高校時代を思い出すことなどなかった私達にとって、今回のお手伝いは貴重なものとなりました。いつも暖かく接して頂いた他の運営委員の方たちには本当に感謝しています。同級生の皆様のご健康とご多幸をお祈りします。



谷口 豊樹 (平成2年卒)
 懐かしい友人と久しぶりに会い、語らう。旧友のがんばっている姿をみると、抱えていた悩みも大したことではなくなってしまう…。今回、思いがけない偶然により、同窓会を手伝うこととなりましたが、おかげで、たくさんの方の元気を頂きました。本当にありがとうございました。



平松万人、佐伯淑子、平工弥生、藤井孝司、柳原伸司
 (昭和55年卒)
 S55年卒の学年同窓会を企画した1組の運営委員から口説かれ、芋づる式に広がった8組のメンバー。運営委員会では、面識がなかった同級生とも親交が深まりました。総会では、旧交を温めるとともに、交流が広がるよう、多くの人に参加を呼びかけます。

在京勤員部
加納 正博 (昭和55年卒)
 名門!岐阜高校。学生時代には、英単語のテストあるいは英文解釈の「山貞」による問題に備えて、よく勉強していました。卒業後も、英語の勉強を継続していて、さまざまな教材に取り組み能力開発を図っています。また、英会話のサークル活動をしつつ、生活の中のルーチンに、英語の学習を取り入れて、語学の楽しみを味わう気持ちを大切にしています。



小池 肇子 (昭和45年卒)
45年卒の皆様のご協力に感謝!!です。3回
目の、これで最後の「会報部」でした。

加藤 由紀子 (昭和45年卒)
今ならできる、今なら楽しい、今だからできる、今だ
から楽しい・・・そんなことが見つかる、本来の仕
事を忘れてしまって・・・。私たちの年代は、まだま
だ遊び時です。ちょっと健康を考えながらではありますが。

渡邊 泰治 (昭和45年卒)
盛り上げましょう!

汲田 大 (平成2年卒)
連絡先不明になっているクラスメートの
所在探しに大変苦労した、というよりほと
んど成果が上がらなかった。大学卒業後
すぐに岐阜に戻りながら、高校時代の人
間関係を大事にしてこなかったツケが
回ってきた。卒業当時は他の人の受験
校や合否、進学先を尋ねることは「詮
索」になると思ってよしとしなかったことを
覚えているが、もう少しは他者に関心を
持っても良かったんじゃないかと今となっ
ては思う。



林 隆之 (昭和55年卒)
卒業から三十有余年、昨年初めて同窓
会総会に出席した。今までは開催案内を
開封もしないでいたのに、なぜか気になり
参加した。私もそんな歳になったのか…同
席した同級生は初対面のようにもあり懐
かしさもあった。初めて出席したのにそんな
感じがせず、これが岐高の歴史であり魅
力なのかと感じた。この会の運営に参加
できたことに感謝したい。

宮本 健也 (平成2年卒)
平成2年に卒業後、20年以上岐阜を離れて北海
道から九州まで転々としていましたが、たまたま一昨
年から地元(名古屋)での勤務となり、不十分なが
ら今年と同窓会の運営を手伝わせていただいで
います。平凡な役所勤めですが、仕事を進めて行く上
でも、人とのつながりの重要性を認識することが多
く、今年と同窓会を機に多くの方々とのつながりを
大事にし、自分の財産としていきたいと思ひます。
今後ともよろしくお願ひします。

会報部

野々村 克宏 (昭和55年卒)
会報部の担当として微力ながら運営
委員に参加させていただき、同級生
や他学年の運営委員の方と関わっ
て貴重な体験ができたことに感謝し
ています。また、原稿依頼をするな
か、岐高の卒業生の方が様々な分
野の第一線で活躍されていること
を改めて実感しました。



小木曾 ようこ (平成2年卒)
一昨年度の夏、甲子園出場校の監督となった同
級生の応援にいきました。仲間がつくって持ち込ん
だ横断幕には、「百折不撓」の文字。私たちは、こ
の言葉でつながっていると実感しました。年月が
たっても変わらない友情とさらに深まる母校の誇り。
岐高に行ってよかったなあ。



平成25年度 同窓会総会運営委員名簿

委員長	昭和45年卒 矢島潤一郎			
副委員長	昭和45年卒 小木曾和夫			
副委員長	昭和55年卒 中西 謙司			
副委員長	平成2年卒 西澤 征平			
事務局長	昭和45年卒 伊藤 俊哉			
総務部	昭和45年卒 小椋 圭吾	昭和45年卒 松野 雅俊	昭和55年卒 内藤 曜	
	昭和55年卒 亀山 弘	平成2年卒 加藤 純大	平成2年卒 西澤 征平	
財務部	昭和45年卒 高井 博文	昭和55年卒 村瀬 正樹	昭和55年卒 篠田 俊彦	
	平成2年卒 小林 美穂	平成2年卒 井上 尚美		
監査	昭和45年卒 小池 秀男	昭和55年卒 佐伯 淑子		
会報部	昭和45年卒 小池 肇子	昭和45年卒 加藤由紀子	昭和45年卒 渡邊 泰治	
	昭和55年卒 林 隆之	昭和55年卒 野々村克宏	昭和55年卒 高橋久美子	
	平成2年卒 宮本 健也	平成2年卒 汲田 大	平成2年卒 宇土 一成	
	平成2年卒 小木曾ようこ			
広告部	昭和45年卒 加藤 陽司	昭和45年卒 市川 明子	昭和45年卒 大野 弘一	
	昭和45年卒 伊藤 俊哉	昭和45年卒 小椋 圭吾	昭和55年卒 小池 基司	
	昭和55年卒 丹羽 啓二	昭和55年卒 塚原 隆司	昭和55年卒 小島 敦	
	昭和55年卒 前川 博行	昭和55年卒 小川 浩志	昭和55年卒 朝居 康浩	
	昭和55年卒 武藤 啓介	昭和55年卒 村瀬 正樹	昭和55年卒 安田 章男	
	昭和55年卒 中村ゆかり	平成2年卒 河合 秀樹	平成2年卒 堀居 真大	
	平成2年卒 西澤 征平	平成2年卒 石樽 昌樹		
会場部	昭和45年卒 山下 玲子	昭和45年卒 須田 敦子	昭和45年卒 祖父江和子	
	昭和45年卒 田代 陽子	昭和55年卒 中西 謙司	昭和55年卒 松井 康司	
	昭和55年卒 岩田 仁	昭和55年卒 飯沼 宣樹	昭和55年卒 横山 宏彰	
	昭和55年卒 今井 祥子	昭和55年卒 乙部理佳代	平成2年卒 笠原 千嗣	
	平成2年卒 川村 真理	平成2年卒 渡辺 祐子	平成2年卒 伴 尚美	
	平成2年卒 尾藤 智子	平成2年卒 鈴木 紀子	平成2年卒 足立 政治	
	平成2年卒 石神 鉄也			
	アトラクション担当	昭和45年卒 幸脇 直人		
動員部	昭和45年卒 大野 弘一	昭和45年卒 野川 秀利	昭和45年卒 斎田 裕明	
	昭和45年卒 足立 和弘	昭和45年卒 大澤 輝芳	昭和45年卒 児玉 清和	
	昭和45年卒 後藤 正	昭和45年卒 高牟礼 寛	昭和45年卒 田中 康司	
	昭和45年卒 平塚 法夫	昭和45年卒 八木 宗彦	昭和45年卒 高井美千代	
	昭和55年卒 平松 万人	昭和55年卒 平工 弥生	昭和55年卒 石垣 敦子	
	昭和55年卒 佐伯 淑子	昭和55年卒 岩田 節子	昭和55年卒 藤井 孝司	
	昭和55年卒 山崎 千里	昭和55年卒 森 一九	昭和55年卒 中村ゆかり	
	昭和55年卒 脇田 昌也	昭和55年卒 柳原 伸司	昭和55年卒 小塚 永子	
	昭和55年卒 平岡ひろ子	昭和55年卒 渡辺佐世子	平成2年卒 谷口 豊樹	
	平成2年卒 河村 吉範	平成2年卒 長谷 元治	平成2年卒 堀場 一彦	
	在京動員部	昭和45年卒 国島真希子	昭和45年卒 板倉 裕子	
		昭和45年卒 垣見 吉彦	昭和55年卒 加納 正博	
		平成2年卒 古田 直樹		
	愛知県担当	昭和45年卒 金子慶太郎		

編集後記

平成二十五年年度岐阜高等学校同窓会「会報」をお届けします。この会報誌編集にあたっては、巻頭挨拶文をお寄せいただいた方々、恩師や同窓生、母校事務局の先生方など、多くの皆様に多大のご協力、ご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

会報に載せる「新校舎」記事の取材のため、何十年ぶりかで母校を訪れました。昨年完成した新校舎、昨年完成した体育館・武道館、今年の三月には校舎前のプロムナードも完成し、正門も変わり、通学した当時の「岐高」の面影はありませんでした。プロムナードの一角にあった「ガリレオ像」、テニスコートのまわりの植え込み、グラウンドのバックネット（とその向こうの堤防）ぐらしか見覚えのあるものは残っていないという感じでした。しかし、斬新な校舎の窓から見える金華山の姿は往事のままで、授業中ぼんやりと眺めていたあの頃を思い出させてくれました。そして、部活動中の岐高生が着用しているのは、あの頃の自分が着ていたのと同じ制服。その姿に、同じ学校に通ったことがある、というだけのつながりの「同窓会」の持つ意味を感じた二日でした。もちろん後輩がつけていたのは、見慣れた桜の校章でした。

岐阜高校の校章が現在のものとなったのは昭和二十三年だそうですが、桜花は岐阜中学以来の伝統。「華陽の健児」の「華」の象徴として桜花が選ばれたのではないかとわいられているそうです。

「さまざまの　こと思ひ出す　桜かな」

という芭蕉の句があります。久しぶりに故郷へ帰ってきた芭蕉が、亡旧主の庭先に昔と変わらず咲く桜を見て詠んだ句だとか。年々歳々同じように咲く桜が、逆に変わってしまったいろいろなことを思い出させる、そんな意でしょうが、同じ桜を見ても、見る人によつて思いはさまざまである、という意もあるのかもしれない。小さな桜の校章に寄せる思いも、それぞれさまざまだと思います。この校章をつけて通学した、という共通点でつながるものたちが集う同窓会。今年母校は創立百四十年を迎えました。

会報編集は、幹事学年である昭和四十五年、五十五年、平成二年卒の委員が担当いたしました。不行き届きの点が多々あり、多くの皆様にご迷惑をおかけしたことを存じます。この場を借りてお詫び申し上げます。最後になりましたが、母校の益々の発展と、同窓生各位のご健勝とご多幸をお祈りして、結びの言葉とさせていただきます。

同窓会総会運営委員会　会報部一同

▽広告ご協賛の 御礼

平成二十五年年度岐阜高等学校同窓会総会の開催に伴う会報の発行に際し、広告のご協賛を賜りました皆様に厚くお礼申し上げます。

なお、ご紹介順序は会報の構成上原則的に順不同となっております。何卒ご了解下さいます様よろしくお願い申し上げます。

平成二十五年六月九日

岐阜県立岐阜高等学校同窓会
平成二十五年年度総会運営委員会
運営委員長　矢島潤一郎